

新学習指導要領に基づくライティング力強化のための 高校英語教材開発の試み

中野 美知子[†] 大矢 政徳[‡] 阿野 幸一[‡] 上田 倫史[†]
早稲田大学[†] 明治大学[‡] 文教大学[‡] 駒澤大学[†]

要約

文部科学省は、平成 29・30 年度に小学校・中学校・高等学校の学習指導要領を改訂し、「話すこと」「書くこと」の活動は従来よりもさらなる強化が必要と指摘されている。本研究では、特に強化が必要と指摘されている「書くこと」の強化を図るための、ディスカッション（議論）と論理的なライティングの融合される指導方法を検討する。今回は Toulmin Model (Toulmin, 1958, 2003) に基づき、多少の修正を行いながら、教材を開発した。このモデルは論理プロセスとして、主張 (Claim)、事実 (Data)、理由づけ (Warrant)、裏付け (Backing)、限定 (qualifier)、反証 (Rebuttal) の 6 つの要素を提案し、論証構造を抽出する際の枠組みや論説教材の構成要素を考える際の分析モデルとして使用されている (井上, 1976; 中山, 木下, 山中 2017 など)。

実験授業の目的

被検者は高校 3 年生 41 名二クラスが参加した。実験授業は事前・事後テストを含め 7 回の授業を行った。今回は 500 語の論説を読み、記述式の設定に英文で答え、最終的には意見文が形式に沿い、かつ思考内容を反映させて書くことができるように指導することを目的とした。形式は従来通り、序論・本論・結論に沿って、記述内容にトゥルミンモデルが反映されるように教材を開発した。トゥルミンモデルの基本的構造は根拠・事実(Data)から主張(Claim)を導くことであり、根拠・事実と主張を結びつけるのが論拠(Warrant)である。

A Development of English Writing Tasks based on Revised Study Guide by MEXT

[†]Michiko Nakano, Waseda University

[‡]Norifumi Oya, Meiji University

[‡]Koichi Ano, Bunkyo University

[†] Norifumi Ueda, Komazawa University



図1 論証モデルの一部(Toulmin, 1958)

論拠は隠れた前提として表現されない場合もあるが、根拠・事実に対して主張が溝が埋められたり、飛躍したりすることがあるので、福澤 (2018) は批判的思考能力の一つとして推論の土台の検討を進めており、隠れた前提を同定する必要があると述べている。今回の実験では論拠という言葉を使わず、主張の説明や理由付け (個人の体験も含む) として、論拠は記述すべき内容であると指導した。意見文の指導には、序論で、背景と説明や理由付けを伴う主張を書き、本論では、主張、主張に対する反論、反論に対する反駁を提示し、最終的には反論+反駁の 1 セットが 2 セット提示できるように指導した。主張に対する反論とは、主張を異なる視点や観点で見るときに反論ができる。その反論を反駁することで、主張が擁護されることを学習者が理解できるように指導した。反論+反駁が 2 回以上繰り返されることが、記述文に重厚さが増していく。結論では、論議をまとめさせた。以下のセクションでは、各レッスンの内容を要約している。

自己診断と教師診断の導入

今まで筆者らは Moodle を活用して 2 年間同様のライティング課題を課してきた。特に顕著であったのは、記述問題であるにもかかわらず、名詞句だけで答えたり、文法のケアレスミスが多かった。そこで、生徒自身が、自分のライティングを再度読み返し、文章で答えているか? ケアレスミスがどれほどあるかについて (Grammatical Accuracy) の自己診断をさせることにした。教師も診断し、生徒たちにフィードバックした。また、Oi (2021) では、Task Fulfillment (設問課題の充足度), Cohesion (文章のスムーズさ) を導入して、ライティング指

導に活かしていた。本研究では、Task Fulfillment も自己診断と教師診断にとりいれた。Cohesion は生徒たちにはわかりにくい概念であると思われ、今回はフィードバック項目として取り扱った。

各レッスン内容

Lesson 1：事前テスト

500 語の英文を読み、7 問の多肢選択による内容理解問題と 5 問の記述問題を与えた。英文の内容は留学すべきか、長所と短所を考え、5 問目の記述問題は意見文を書くというものだった。

Lesson 2:

序論には背景と主張がかかれているので、背景と主張を見抜くことを練習した。本論では主張の他に関連する副題 (sub-theme) が書かれていたり、反論や反駁が提示されるので、副題と反論、反駁を読み解く練習をした。また、作者の結論を要約する練習を課した。

Lesson 3:

このレッスンでは、エッセイの構造を復習します。序論では、主題 (作者の主張) と背景が書かれています。本文では、主題の説明の他に、反論と反駁が書かれています。反論と反駁にはそれぞれ説明が必要です。反論と反駁は 2 個以上のことが多いです。結論では、主張の正当性がまとめられています。

Lesson 4:

この課では、本文に書く反論と反駁を書く練習をしました。主題 (あなたの主張) は序論に書き、本文では主張の説明の後、主張に対立する意見を書き加えます。反論に対して、反駁することで、あなたの主張を擁護します。反論や反駁にも説明 (証拠やあなたの体験) を書くことが必要です。本文に反論や反駁を加えることで、議論に深みが出てきます。しっかり、練習してください

Lesson 5:

5 回目のレッスンでは、以前読んだ長文をもう一度読み、あなたの意見をまとめて書く練習をします。意見文なので、序論、本文、結論が必要です。序論にはあなたの主張と背景を示し、本論では、あなたの意見を説明した後、多角的に討論するために、あなたの意見に対立する反論を示し、解説し、そのうえで、反駁することで、あなたの意見の正当性を示します。反論と反駁は 2 種類示すことが重要です。さらに、納得のいく結論を導きます。

Lesson 6:

記述問題の 4 と 5 は意見文を書くことが、求められています。記述問題 4 は完璧な意見文でな

くてもよいですが、記述 5 は、はっきりと意見文を書くように言っています。したがって、構造に注意し、本文には、あなたの意見の具体的な説明、反論、反駁が必要です。前のレッスンで習ったように、反論も 2 種類、反駁も 2 種類書いてください。

Lesson 7:

事後テストで、Lesson 1 と同じテストを受講させた。

結論と考察

事前テストと事後テストを受講した生徒 65 名を対象に、その平均値の差を、対応あり t 検定で検討した。その結果、 $t(64)=-5.32$, $p<.001$, $d=0.50$, 95%CI[-5.04, -2.29]で有意さがあり、オンライン学習コンテンツを学習して、テストの得点が有意に伸びていることが分かり、効果量も中程度であった。

謝辞: この研究は基盤 B 上田倫史(代表)課題番号 19H01721 に研究資金を得ている。

参考文献

- 井上尚美 (1976) 「トウルミンの『論証モデル』について」 『東京学芸大学紀要』第 2 部門人文科学第 27 集 151-160
- 岩下義邦, 河野順子 (2015) 「中学生のコミュニケーションにおける論理的な思考力の育成」 『熊本大学教育学部紀要』第 64 号 pp.9-16
- 柏木哲也 2018 日本人のための英語ライティング講座 南雲堂
- 河野順子 (2011) 「論証能力を支える論理的思考力の発達に関する調査—論理理科カリキュラムの開発へ向け—」 『熊本大学教育学部紀要』第 60 号 pp. 7-16
- 福澤一吉 2018 新版 議論のレッスン NHK 出版新書
- 鶴田清司 (2011) 「論理的な思考力・表現力育てるために—論証における「根拠」と「理由」の区別—」 自動言語研究会編 『国語の授業』No. 248. 2007 年 8 月号 一光社
- 中山貴司, 木下博義, 山中真吾 (2017) 「小学生の批判的思考を育成する理科学習指導法の開発—トウルミン・モデルの導入と多様な質問経験を通して—」 理科教育学研究 Vol. 57 No. 3. pp. 245-59.
- Frans H. van Eemeren & Henkemaans, A. Francisca Snoeck, (2017). *Argumentation: Analysis and Evaluation*, Taylor and Francis.
- Ken Hyland. (2014). *Second Language Writing*, Cambridge University Press.
- Y. Oi. (2021). *Efficacy of Student Assessment as Part of Writing Instruction for Japanese High School Students*, Unpublished Ph.D thesis, Waseda University.
- Nancy Sommers. (2017). *A Writer's Reference*, Bedford Books.
- Nancy Sommers & Hacker, D. (2014). *A Pocket Style Manual*, Bedford Books.
- A. Thomson. (1996). *Critical Reasoning: A Practical Introduction*, Routledge.
- Stephen E. Toulmin. (1958). *The Uses of Argument*, Cambridge University Press.
- Stephen E. Toulmin. (2003). *The Uses of Argument*, Cambridge University Press.